

※本リリースは 2022 年 3 月 30 日にフランス リュエイユ・マルメゾンにて発表されたプレスリリースの抄訳です。

シュナイダーエレクトリック、世界経済フォーラムから新たなライ トハウス認定を獲得

- ・ インド・ハイデラバードの工場（プラント）が、シュナイダーエレクトリックのスマートファクトリー史上 5 番目の「アドバンストライトハウス」に選定
- ・ 2018 年に「アドバンストライトハウス」に認定されたフランスのル・ヴォードルイユの工場（プラント）は、今回シュナイダーエレクトリックのスマートファクトリー史上 2 番目として、世界に 6 つしかない「サステナビリティライトハウス」の認定を獲得
- ・ 第四次産業革命の技術が高い効率性と持続可能性の実現に寄与することを実事例として証明

エネルギー・マネジメントおよびオートメーションにおけるデジタルトランスフォーメーションのリーダーであるシュナイダーエレクトリックは、フランスのル・ヴォードルイユ工場が世界経済フォーラムにて「サステナビリティライトハウス」の認定を受賞したことを発表しました。サステナビリティライトハウスの認定工場は世界で 6 つしかなく、シュナイダーエレクトリックにとっては、昨年 9 月にケンタッキー州レキシントン工場が同じ認定を獲得したのに続いて 2 件目となります。また、世界経済フォーラムは、今回、インドのハイデラバードにある工場も「アドバンストライトハウス」として認定しました。シュナイダーエレクトリックにとって、フランスのル・ヴォードルイユ工場、中国の無錫工場、ケンタッキー州のレキシントン工場、インドネシアのバタム工場に続いて、5 番目の認定工場となります。



シュナイダーエレクトリック フランスのル・ヴォードルイユ工場

世界経済フォーラムのサステナビリティライトハウス認定は、製造現場における第 4 次産業革命（4IR）テクノロジーによって、事業活動で新たなレベルのサステナビリティを追求し、事業競争力向上と環境への責務を両立しながらクリーンかつ持続可能な未来をもたらすソリューションを探求している企業を認定するものです。

ル・ヴォードルイユの工場は、サステナビリティの成果を高めるためにいかにデータの力が重要なかを証明した、説得力のある事例といえます。この工場では、デジタルプラットフォームに接続された IIoT センサーを導入し、新たにデータを可視化することにより、最適なエネルギー管理を実現して、電力使用量を 25% 削減、材料の無駄な廃棄を 17% 削減、そして CO2 排出量を 25% 削減しました。また、このスマート工場には、AI が監視するクラウド分析に接続されたゼロリジェクトの水リサイクルステーションが設置されており、水の使用量を 64% 削減するための予測・処理が行われています。



シュナイダーエレクトリック インド・ハイデラバード工場

48%削減、リードタイムは 67%削減することに成功しています。

シュナイダーエレクトリックのグローバルサプライチェーン部門のエグゼクティブバイスプレジデントである Mourad Tamoud は次のように述べています。「第 4 次産業革命技術への投資は、お客様、サステナビリティ、そしてビジネス成果の向上へのコミットメントによって推進されています。このたびの世界経済フォーラムによるフランスのル・ヴォードルイユ工場とインドのハイデラバード工場の認定は、第 4 次産業革命技術の迅速かつ広範な展開に向けた説得力のある事例を提供するもので、メーカーにとってサステナビリティ、アジリティ、レジリエンスの面で大きなメリットがあります」。

これらの最新の事例は、シュナイダーの目的に対するコミットメントを示しています。Mourad Tamoud は次のように続けます。「私たちは、デジタル化と持続可能性のための信頼できるパートナーとして、お客様や社会のためにサプライチェーンを改善・強化することを常に考えています。そして、それを実現しているのは社員であることを決して忘れていません。だからこそ、私たちはピープルビジョンと社員への投資の一環として、社員のデジタルスキルや専門知識の育成に投資しているのです。」

世界経済フォーラムは、第 4 次産業革命の成長をリードするメーカーを表彰するため、2018 年にマッキンゼー・アンド・カンパニーと共にグローバルライトハウスネットワークのイニシアチブを開始しました。シュナイダーのハイデラバード工場は、グローバルライトハウスネットワークの中で、4IR テクノロジーを通じてビジネスモデルの革新と顧客価値の向上を実現しているとされる 100 以上の工場のリストに加わりました。これらの企業は、デジタルオペレーションが生産性と効率の向上を生み出し、広範囲にわたる混乱と課題に直面しても持続可能な成長を可能にする方法を示しています。

STRIVE プログラムについて

ハイデラバードル・ヴォードルイユの工場は、40 か国以上・300 箇所近くに亘るシュナイダーエレクトリックの工場・ロジスティクスセンター網に含まれる拠点として、同社が次世代のサプライチェーンを目指すプロジェクトとして推進している STRIVE プログラムの一部にもなっており、収益性と効率を高めながら、持続可能性に向けて根本的な課題に取り組んでいます。

STRIVE (Sustainable, Trusted, Resilient, Intelligent, Velocity and Efficiency) プログラムは、圧倒的なスピード感と革新性を備えた、地球環境と顧客中心のサプライチェーンを目指しています。

- 持続可能性 (Sustainable)** – シュナイダーエレクトリックは、地域の生物多様性を保護しながら、カーボンニュートラルで循環的なサプライチェーンを構築するプロジェクトを実行します。
- 信頼性とレジリエンス (Trusted & Resilient)** – シュナイダーエレクトリックは、マルチソーシングを通じてレジリエンスを強化し、生産ラインにおいていかなる失敗も発生しないよう最善を尽くします。テクノロジーを活用することで、お客様に高度にパーソナライズされた体験を提供し、業務のエンドツーエンドの視点を用いて優れた品質を確保します。

・**インテリジェント（Intelligent）** - シュナイダーエレクトリックは、デジタル技術を活用した予測や予防、自動化によって、柔軟性の高いリモートで調整されたサプライチェーンを実現します。

・**速さと効率（Velocity & Efficiency）** - シュナイダーエレクトリックは、地域における強い存在感と、機敏な考え方、および供給パートナーの力を活用します。

STRIVEプログラムは、電化とデジタル化が気候変動との戦いにおいて切り離せないツールであるというシュナイダーエレクトリックのビジョンの一部です。このビジョンにより、シュナイダーエレクトリックは最新のランキングによると2021年の [Gartnerサプライチェーントップ25](#)で4位に選ばれました。

Schneider Electricについて

シュナイダーエレクトリックは、あらゆる人がエネルギーと資源を最大限活用することを可能にし、世界の進歩と持続可能性を同時に実現することを目指しています。私たちはこれを「Life Is On」と表現しています。

私たちの使命は、持続可能性と効率性を実現するためのデジタルパートナーになることです。

世界をリードするプロセス技術やエネルギー技術と、エンドポイントとクラウドをつなぐ製品、制御機器、ソフトウェアやサービスと、ライフサイクル全体を通して統合し、その統合された管理を住宅、ビル、データセンター、インフラストラクチャ、各種産業に展開することでデジタルトランスフォーメーションを推進します。

私たちは、最もローカルなグローバル企業です。社会にとって意義深い目的を持ち、多様な意見を取り入れ自ら行動するという価値観を持って、オープンスタンダードとパートナーシップエコシステムの拡大に尽力します。

www.se.com/jp

Discover Life Is On

Follow Us:      

Schneider Electric Insightsで、サステナビリティ、Electricity 4.0、次世代オートメーションを形成する最新の見解をご確認ください。

Hashtags: #LifeIsOn #SmartFactory #IndustriesOfTheFuture #IIoT

参考文献:

- [Three Best Practices for Achieving Smart Supply Chain Agility During Crises](#), Mourad Tamoud, グローバルサプライチェーン エグゼクティブバイスプレジデント